

令和6年度 第3回山形県スポーツ推進審議会 議事概要

日 時：令和7年1月31日（金） 14時～15時40分

場 所：村山総合支庁 講堂

参 加 者：出席者名簿のとおり

1 開会

2 挨拶（観光文化スポーツ部長）

3 議事概要

(1) 事務局説明

事務局から、第2期山形県スポーツ推進計画の策定について説明

(2) 意見交換

委員からの主な御意見等については、以下のとおり。

【星川麻奈美 委員（NPO 法人とざわスポーツクラブ アシスタントクラブマネジャー）】

- ・ 総合型地域スポーツクラブの年代別会員数をみると、高校生から40代までの人数が大幅に少なくなっている。クラブ運営を担う次世代の人材や指導者の育成のためにも、小学生・中学生のうちから総合型クラブをアピールしていく必要がある。
- ・ 基本方針2「子どものスポーツ機会の充実と体力の向上」に関し、関係機関等との連携はもちろん、家庭への働きかけも必要と感じている。
- ・ 部活動改革について、費用面や送迎面などの課題を少しずつ解決しながら、地域展開を進めていけるとよい。

【高橋美保 委員（西川町スポーツ推進委員）】

- ・ 子どもと女性のスポーツ実施率が上がらないのは大きな課題だと感じている。楽しいスポーツ環境にいた思いがあれば、様々な事情で一度スポーツから離れても、またスポーツに戻ってくると思う。
- ・ 今後施策を展開していくにあたって、基本方針1から4が独立したものではなく、相互に関係しながら事業が進められるのが理想的だと思う。
- ・ 部活動改革への取組みについて、地域格差が生じていると感じるので、どのように進めていくのかが見えてくると取組みやすいと思う。

【黒沼祐蔵 委員（山形県障がい者スポーツ協会 常務理事）】

- ・ 今年度佐賀県で開催された全国障害者スポーツ大会において、本県選手は多くのメダルを獲得した。ご本人のモチベーションや次世代の方のためにも、本計画の進捗状況を把握するための参考指標の中に、全国障害者スポーツ大会のメダル数に係る指標を入れていただきたい。

【金塚洋輔 委員（K-project 代表兼監督）】

- ・ 蔵王坊平アスリートヴィレッジについて、ナショナルトレーニングセンター強化拠点施設に指定されていることから、基本方針3「国内外で活躍できるアスリートの育成等と競技力の向上」に記載していただきたい。
- ・ 強くなるためにはその競技を好きになることが大切であり、このことが最終的にトップアスリートを育てることにつながると感じている。また、一つの団体の中だけでは固定観念にとらわれる恐れがあるため、他の団体等との情報交換やコミュニケーションも強くなるためには必要だと感じている。
- ・ 指導者として活動したくても、仕事等によりできない人もいると思うので、働いている方などが指導に行きやすい環境を整備する必要があると思う。

【奥山雅信 委員（県スポーツ協会 常務理事）】

- ・ 部活動改革について、子どもたちのニーズ、志向に応じた豊かなスポーツ環境を構築していくことが大切であると感じている。
- ・ 国スポの結果を見ると、少年種別の成績が下がっている。今後のトップアスリート輩出や指導者育成にも影響する本県のスポーツ振興の根幹に関わる課題だと感じているので、少年種別の競技力が低下している原因をしっかりと分析し、これに対応する施策等を検討していく必要がある。
- ・ 県中学校体育連盟や県高等学校体育連盟に対しては、強化費だけでなく、部活動を取り巻く環境も踏まえ支援していくことが重要と感じている。

【井上聡子 委員（さとこ女性クリニック 院長）】

- ・ スポーツドクターなど専門家同士の情報共有の必要性について記載していただきたい。
- ・ 基本方針4（1）「スポーツを通した誰もが参画できる共生社会の実現」の中に、女性だけでなく、ジェンダーに関する文言を記載していただきたい。

【細谷尚寿 委員（山形県高等学校体育連盟 会長）】

- ・ 本計画を策定するにあたり、現在教育委員会で作成している第7次山形県教育振興計画との連動性も意識する必要がある。
- ・ 予算額が競技力向上にもつながってくると思うので、施策の展開にあたっては、予算の確保もお願いしたい。
- ・ 競技によっては、参加者の減少や運営の高齢化等により、今後も持続可能な大会が運営できるのか危機感を持っている。

【栗田和真 委員（山形県中学校体育連盟 会長）】

- ・ 目指す姿にある「スポーツを通した健康で豊かな県民生活」の実現のためには、生涯スポーツの基礎・入口となる観点から、基本方針2（2）「①体育・保健体育授業の充実」が重要と感じている。そのため、令和5年度に本県で開催された第62回全国学校体育研究大会の研究成果を広く浸透させることが大切だと考えている。

- ・ 部活動改革については、市町村によって大きく進捗状況が異なっているため、より一層具体的かつ実効的な取組みを全県的に進めていく必要があると感じている。一方で、子どもたちのスポーツ環境が整備されないまま、時期ありきで進められ、子どもたちのスポーツ離れが進まないようにしなければならないと感じている。

【板垣由紀子 委員（最上町教育委員会教育文化課 課長）】

- ・ 今年度、本町で中学生、高校生のスキーの大会があったが、運営に関わるスタッフが高齢化する中で、中高生も競技の準備や片付けに携わってくれ、スキー場に活気を与えてくれた。
- ・ 大会の運営や部活動の外部指導など、地域スポーツを推進していくうえで、地域の企業・事業所等の理解、支援、協力は欠かせないと感じている。

【阿部弘生 委員（仙台大学体育学部現代武道学部 准教授）】

- ・ スポーツに関する業務が観光文化スポーツ部に移管されたことを踏まえ、スポーツを広く身体運動と捉え、今後、本計画に基づき「する」「みる」「きく」「ささえる」を一層意識した取組みを進めていく必要があると考えている。
- ・ 今後、施策の成果をデータとして集計する際は、それぞれの年代に対する新型コロナの影響（新型コロナの時期に何歳だったか等）にも注意する必要がある。
- ・ 幼児期運動指針等の周知に関し、幼稚園・保育所等における実際の取組み状況を確認する必要があると考えている。

5 その他

黒沼委員から、令和7年11月15日～26日の日程で、日本で初めて開催される東京2025デフリンピックに関する紹介等があった。

6 閉会